

社会教育施設の自己紹介

【館名】広島県立美術館

【施設概要】

広島県立美術館は、緑濃い名勝・縮景園に隣接しつつ、広島市中心部にほど近く、絶好のロケーションに位置しています。昭和 43(1968)年 9 月、中国地方で最初の公立美術館として開館したのが当館でした。昭和 31(1956)年に広島県西部の小学校から始まった美術館建設のための 1 円募金運動が県全体に広がるなど、美術館建設の機運が高まった結果でした。



↑【広島県立美術館外観】

昭和 60 年代になると、美術品の鑑賞機会の提供のみならず、芸術文化に関する学習支援を行うなど、生涯学習の振興を視点に入れた 21 世紀を見据えた美術館への改築計画が浮上しました。そして、平成 8(1996)年 10 月 6 日、都市型美術館として全面リニューアルオープンしました。外観は、自然素材を生かしたベージュ色のレンガタイル、花崗岩を使用した外壁や大きな壁面をできるだけ低く見せるため段状のデザインを採用するなど、景観面に配慮した設計となっています。この年、公募によって選ばれた当館のシンボルマークは、

京都のグラフィックデザイナー・福田秀樹氏によって制作されました。



←【広島県立美術館シンボルマーク】

隣接する縮景園は、元和 6(1620)年、武将茶人の上田宗箇によって作庭され、代々の広島藩主・浅野家の別邸として使われてきました。昭和 14(1939)年、浅野家から広島県に寄付・移管され、今日まで引き継がれています。現在の美術館の敷地には、大正 2(1913)年以来、浅野家伝来の古器旧物を展示する観古館がありました。同館は、わが国で初めての本格的な私立美術館とされていますが、昭和 20(1945)年の原子爆弾投下により、惜しくも焼失しました。その後、戦災前の景観に復元され、現在は美術鑑賞と庭園散策があわせて楽しめるよう、美術館と縮景園との間に連絡通路を設置し、快適に過ごせる空間として親しまれています。

広島県立美術館のホームページ→ <http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/>

【特色ある取り組み】

○ 1 年に 20 テーマを楽しむ所蔵作品展

広島県立美術館は、広島県ゆかりの美術作品・日本とアジアの工芸作品・1920-30 年代の美術作品をテーマに、4,000 点を超える作品を所蔵しています。コレクションは、様々な

視点から、バランスよく鑑賞していただけるよう、年4回のテーマをもうけて、彫刻展示スペース、欧米の美術、日本の油彩画、日本画、工芸作品の5つの常設展示スペースで展示しています。

彫刻展示スペース「彫刻家・圓鋸勝三展」→

所蔵作品展では、友の会ボランティア・ガイドが、来館する団体への対応のほか、毎日交代で作品の解説を行っています

(平日1回、土日祝2回)。また、所蔵作品の鑑賞を助けるため、小学校5、6年生に向けて作成したワークシートは、大人の方にも大変喜ばれています。

平成20年度の秋には、当館が開館40周年を迎えるにあたって「コレクションは語る—ダリ、鬘光、菅井汲、奥田元宋、平山郁夫、巖島図屏風、色絵馬など一挙大公開！」展を開催し、代表的なコレクションをまとめてご紹介します。

また、3階の企画展示室では、年6～7回特別展を開催しており、それに関連した美術講座やギャラリートーク、ワークショップなどを通じ、県民への美術学習の機会を提供しています。そのほか地階では、作品発表の場として県民ギャラリーを設けて創作活動を支援するなど、広島県の芸術文化の拠点として、愛され親しまれる美術館を目指しています。

○学校と美術館を繋ぐ試み

美術文化を通じた青少年の育成は、美術館の重要な使命です。当館としても「学べる美術館」を基本運営方針のひとつの柱に据え、学校との連携を重視した事業運営を行ってきました。

例えば、学校の教育内容を考慮した特別展の企画、各特別展での子ども向けガイドブックの作成やワークショップ・団体学習鑑賞会の開催、展覧会テーマに因んだ児童・生徒の作品募集と展示、日本伝統工芸展の開催に合わせて実施する出張授業（工芸作家を学校に派遣）、所蔵作品展での親子を対象とするギャラリートークやワークシートの提供、所蔵作品を学校に持ちこんで行う美術作品鑑賞教室、県内の美術館ネットワークを活用して地域の学校や家庭に美術鑑賞の機会を提供する所蔵作品巡回展、小・中学校教員の長期研修受入れなど、様々な取り組みを展開してきたところです。



←東広島市立上黒瀬小学校での美術作品鑑賞教室

なかでも、所蔵作品を学校に持ちこんで行う美術作品鑑賞教室は全国的にも例が少なく、特色ある事業と言えます。平成14年度から県内の小・中・高等学校から毎年2～3校を募集・選定して開催していますが、教師と学芸員が共同して、個別の教育ニーズに沿って、テーマの設定や鑑賞作品の選定、授業構成や教材の考案などを行う

もので、教師の関与が大きく、児童・生徒にとって安心できる環境と適度な緊張のもと、密度の高い授業の実施を可能にしています。

この鑑賞教室の成果は、学校における鑑賞教育の参考に資すると同時に、当館における他の教育普及活動にも反映されています。

また、平成15年度から受入れを開始した小・中学校教員の長期研修は（初年度のみ2名でそれ以後は毎年1名ずつ、研修期間は1年または半年）、研修員自らが設定した課題を中心に研修を進めるものですが、当館に鑑賞教材や児童・生徒の意識調査データなどが蓄積されるとともに、研修成果の一部をホームページ上で公開することにより、教育現場の参考となり、教員間の情報交換にも貢献するなど、学校と美術館を繋ぐ架け橋として大きな役割を果たしています。

今後とも、これまでの活動の反省・評価に基づき、学校との連携をより効果的に進めていくための工夫を重ねていきたいと考えます。

④ここ数年の来館者の推移

平成18(2006)年度	396,204人
平成17(2005)年度	362,559人
平成16(2004)年度	484,188人
平成15(2003)年度	563,713人
平成14(2002)年度	461,203人

⑤今後の企画展

広島県立美術館ではバラエティ豊かな特別展の開催により、より多くの方々に質の高い美術の世界と出会う機会を提供しています。

2月19日（火）～3月30日（日）

日展100年

日展がその前身である文展創設から数えて100年を迎えることを記念する展覧会。日本の近現代美術に大きな位置を占める諸作家の名品を総合的に通覧します。

<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/exhibition/Nitten100.html>

4月18日（金）～5月25日（日）

親鸞聖人750回大遠忌記念 本願寺展

親鸞聖人自筆の国宝「観無量寿経註」「阿弥陀経註」などの法宝物をはじめ、国宝「三十六人家集」や「熊野懐紙」など伝来美術品とともに真宗美術の諸相を展覧します。

<http://www1.hpam-unet.ocn.ne.jp/exhibition/Hongwanji2008.html>